

第五十回帝國議會
衆議院

明治三十二年法律第七十號中改正法律案(貴族院送付)外三件

(明治三十二年法律第七十號中改正法律案(貴族院送付)外三件)
貴族院送付 明治三十二年法律第七十號中改正法律案(貴族院送付)
貴族院送付 明治三十二年法律第七十號中改正法律案(貴族院送付)
貴族院送付 明治三十二年法律第七十號中改正法律案(貴族院送付)

委員會會議錄(筆記)第一回

委員會成立

本委員ハ大正十四年三月三日(火曜日)議長ノ指名ヲ以テ左ノ通り選定セラレタリ

神田 正雄君 橫山 一格君
齋藤太兵衛君 佐藤 實君
下元鹿之助君 由谷 義治君
永井 作次君 安保 庸三君
麓 純義君 井坂 豐光君
森 肇君 志賀和多利君
飯村 五郎君 赤間嘉之吉君
古川 清君 杉 宜陳君
砂田 重政君 清瀬 一郎君
同月四日(水曜日)午前十時三十分委員長理事互選ノ爲各委員參集ス其ノ氏名左ノ如シ

神田 正雄君 橫山 一格君
齋藤太兵衛君 佐藤 實君
下元鹿之助君 由谷 義治君
志賀和多利君 赤間嘉之吉君
古川 清君 砂田 重政君
年長者赤間嘉之吉君投票管理者トナル

○赤間投票管理者ハ委員長及理事ノ互選ヲ行フヘキ旨ヲ宣告ス

○由谷委員ハ投票ヲ用キス委員長及理事ノ指名ヲ投票管理者ニ一任スヘシトノ意見ヲ提出ス

○赤間投票管理者ハ由谷君ノ意見ニ異

議ナキヲ認メ砂田重政君ヲ委員長ニ橫山一格君志賀和多利君杉宜陳君ヲ理事ニ指名ス

〔砂田重政君委員長席ニ著ク〕
○砂田委員長ハ就任ノ挨拶ヲ述ヘ散會ヲ宣告ス
于時午前十時五十分

會議

大正十四年三月七日(土曜日)午前十一時開議
出席委員左ノ如シ

委員長 砂田 重政君

理事 若宮 貞夫君
神田 正雄君 佐藤 實君
下元鹿之助君 由谷 義治君
永井 作次君 安保 庸三君
柏田 忠一君 森 肇君
赤間嘉之吉君 古川 清君
清瀬 一郎君

同月五日委員杉宜陳君麓純義君辭任ニ付其ノ補闕トシテ若宮貞夫君柏田忠一君ヲ就レモ議長ニ於テ選定セリ
同月五日船舶無線電信施設法案(政府提出)ノ審査ヲ本委員ニ付託セラレタリ
出席國務大臣左ノ如シ
遞信大臣 犬養 毅君
出席政府委員左ノ如シ
遞信參與官 植原悦二郎君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ
遞信省管船局長 宮崎清則君
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

船舶無線電信施設法案(政府提出)
〔以下速記〕

○砂田委員長 ソレデハ是カラ會議ヲ開キマス、船舶無線電信施設法案ノ先ヅ提案ニ對シマシテ、政府委員ノ説明ヲ求メルコトニ致シタイト思ヒマス

○植原政府委員 此法案ハ御手許ニ差上ゲテアル所ノ法案自體デ御承知ノ通り、法文其物ハ極メテ簡單ナモノデアリマシテ、此沿革ヲ申上ゲマス、大正元年ニ御承知デモゴザイマセウガ、有名ナ「ホイット、ライン」ノ巨船「タイタニック」ガ大西洋ニ於テ沈没シタコトガアリマス、サウシテ非常ニ多數ノ人命ヲ損傷シマシタノデ、海上ニ於ケル所ノ生命財産ニ對シテ努メテ安全ナ方法ヲ講ジナケレバナラナイト云フコトガ、海運事業ノ盛ナ國ノ間ニ唱ヘラレルヤウニナリマシテ、大正二年ニ倫敦ニ於テ大西洋ノ航海ニ主トシテ從事シテ居ル所ノ英、米、佛、獨等ノ代表者ガ寄りマシテ、遠洋航海ヲスル船舶、又ハ相當ノ船員ヲ乗セテ居ル所ノ船舶ニ對シテ、無線電信ノ施設ヲ強制スルコトガ必要ダト云フノデ、國際協約ヲ締結サレテ

調印致シタコトガアリマス、所ガ間モナク歐洲大戰ガ勃發致シタノデ、各國共批准ヲ見ルコトハ出來ナンデ居リマシタガ、大正二年ニ米國ハ先ンジテ本國並外國船デアラウトモ、米國ノ港灣ニ出入スル船舶ニ對シテハ、無線電信ヲ強制スル所ノ法案ヲ作ッテ、現在ニ於テモ強制シテ居リマス、英國モ佛國モ引續イテ船舶ニ無線電信ヲ施設セシムル所ノ法律ヲ設ケマシテ、之ヲ實行致シテ居ル、我國ハ御承知ノ如ク四面環海ノ國デアッテ、海運事業モ可ナリ盛ナ國トシテ認メラレテ居ルガ故ニ、是等ノ事情ニ鑑ミマシテ船舶ニ無線ノ設置ヲ強制サセルコトガ必要デアルト考ヘマシテ、此法案ヲ作ッテ譯デアリマス、此法案ハ御承知ノ如ク、二千噸以上ノ船舶、又ハ人員ニ於テ五十人以上ノ人員ヲ搭載スル所ノ船舶ニ對シテハ、無線ノ設備ヲ強制シヤウトスル所ノ法案デアリマス、斯様ナ次第デ申スマデモナク、海運國ト致シマシテハ海上ニ於ケル所ノ生命財産ニ對シテモ深甚ナル考慮ヲ費サナケレバナラナイ、斯様ニシテ海運事業ノ發達ヲ期シ得ラレルモノト考ヘマシテ、茲ニ此提案ヲスル順序ニナッテ譯デアリマス、何卒慎重ニ御審議ノ上御協賛アラントヲ希望致ス者デアリマス

○森委員 此第一條ノ第一項ノ一號、二號ハ總噸數二千噸以上ノ船デアレバ、必ズ無線電信ノ設備ヲシナケレバナラヌ、斯ウニ云フヤウニ解釋シテ宜シイノデスカ、更ニ第二號ニ於テモ五十人以上ノ人ヲ搭載スル船デアラナラバ、必ズ無線電信ノ裝置ヲ要スル、斯ウニ云フヤウニ御規定ニナッテ居リマス、ソレカラ第一項第二號ノ船船ニシテ總噸數二千噸未滿ノモノニ付テハ、主務大臣ハ別ニ規定ヲ設ケル、斯ウニ云フコトニナッテ居リマスガ、是ハ五十人以上ノ人員ヲ搭載スル船船デアッテ、而モ二千噸未滿ノ場合ニ於テハ、特別ニ無線電信ノ裝置ヲ爲サズトモ宜シイト云フヤウナ意味ノ除外例デモ設ケヤウト云フノデ、此規定ヲ設ケラレタノデアリマスカ

○植原政府委員 船舶ノ無線電信ヲ強制的ニ設備セシムルニハ、噸數制ニ依ル所ト、人員制ニ依ル所ト、或ハ兩方採用シテ居ル國モアリマス、日本ニ於テハ此二ツヲ併用スルコトガ宜シカラウト云フノデ、斯様な制度ヲ設ケタ譯デアリマス、サウシテ大體ニ於テ斯様なモノダケヲ除外シヤウト致シテ居リマス、總噸數五百噸未滿ノモノハ勿論ノコト、ソレカラ總噸數五百噸以上二千噸未滿ニシテ、内地ノ海岸即チ沿岸航路——沿岸百海里ヲ超エザル區域ヲ航行スルモノハ、特ニ此設備ヲ強制スルコトヲ避ケヤウ、勿論沿岸百海里ト云フ場合ニ於テ、八丈島ヤ捉擇島ノ沿岸

ダケハ除外スルコトニナッテ居リマスカ、左様御承知ヲ願ヒタイ、ソレカラ總噸數五百噸以上二千噸未滿ノ船舶ニシテ朝鮮、臺灣、樺太、關東州ノ沿岸デアリマシテ、大體只今申上ゲマシタ如ク、沿岸百海里以内ヲ航行スルモノモ之ヲ除外スル、ソレカラ總噸數五百噸以上二千噸未滿ノ船舶ニシテ、構造上又ハ其他ノ理由ニ依ッテ無線電信ノ設備ヲスルコトヲ不適當ト遞信大臣ニ於テ認メタモノモ除外スル、又總噸數五百噸以上二千噸未滿ノ船舶ニシテ、船舶檢査法施行細則ノ規定ニ依リ、臨時ニ旅客ヲ搭載シタル時ニ、搭載人員五十人未滿ノモノ、是等ヲ除クト云フ方針デス様ニ立案ヲシタノデアリマス

○森委員 只今ノ御説明ニ依ルト一條ノ一項二項ノ二ツニ付テハ總噸數二千噸以上ノ船舶ニシテ、五十人以上ノ人員ヲ搭載スルモノト云フヤウナ御説明デアリマスガ、五十人以上ヲ搭載スル船舶デアレバ何レモ無線電信ヲ裝置シナケレバナラヌヤウニ思ヒマスガ、二ツノ條件ヲ具備シタ際、若クハ何レニ對シテモ其裝置ヲ命ゼラレルノデアリマス、只今ノ取除キニ付テハ無論政府トシテ今後實行上ノ内部ノ御計畫トデモ諒承致シマスガ、此一項二項ノ船舶ニ對シテ云々ノ規定ヲ設ケルコトヲ得ルト云フ條項ハ、只今御話ノヤウナ取除ヲ設ケル爲ノ規定ト解釋シテ宜ウゴザイマス、左様デアルトスレバ、ソ

レ等ノ事ヲ此法律ノ規定ニ存シテ置クコトハ、何等カノ妨ガアリマスカ、尙ホ只今ノ御話ニ依リマスルト、日本帝國ノ沿岸ノミヲ航海シテ居ル船舶ニモ、幾湊カラ超エタルモノニ對シテハ無線電信ノ裝置ヲ要求セラレルヤウニ受取ラレマスルガ、サウスルト此所ニアル近海航路、所謂沿岸航路トドウ云フ點ニ於テ區別ニナリマスカ

○植原政府委員 二千噸以上ノモノデアリマシテモ、其船舶ガ航海中デアルトカ、或ハ萬已ムヲ得ナイ事情ノ爲ニ無線電信ノ施設ヲスルコトガ出來ヌト云フ場合ニハ、遞信大臣ノ認可ヲ受ケテ一時其施設ヲシナイデ居ルコトヲ認メルト云フコトニ御承和ヲ願ヒタイ、五十人以上ノ人ヲ搭載致シマシテモ、ソレガ救済ノ爲ニ乗セテ參タトカ、其他航海上特殊ノ事情ノ爲ニ五十人以上ヲ乗セテ行カナケレバナラヌ場合ニ於テハ、遞信大臣ノ認可ヲ得レバ宜イコトニナッテ居リマス、詰リ二重ノ定メ方ヲ致シタノデアリマス、ソレカラモウ一ツハ沿岸ハ半湊以内ヲ航行スルモノハ二千噸以上ノ船デモ、大體ニ於テ宜イノデアリマス、先刻申シマシタ通り、近海ト申シマスレバ、十湊ヲ超エルト、斯ウニ云フヤウニ御承知ヲ願ヒタイ、沿岸ト云フノハ、百湊ヲ越エルモノハ、此規定ニ依テ無線電信ノ規定ヲ強制サレルモノト御承知ヲ願ヒマス

○森委員 サウスルト此法律デ目指シ

テ居ル船ハ、一定ノ航路ヲ定期航海シテ居ルモノデナク、或ハ漁業トカ、其他種々ノ業務ノ爲ニ時ヲ定メズシテ、遠洋ニ出テ行クヤウナモノニ對シテモ、此法律ヲ適用ニナリマスカ

○植原政府委員 只今モ申上ゲル通り、沿岸百湊以内ヲ超エテ航行スル船舶デアリマスレバ、ソレハ定期デアラウト、不定期デアラウト強制スル方針デアリマス

○森委員 サウスルト百噸未滿ノモノデ、而モ五十人以上ヲ搭載シテ居ル船即チ今日支那海等ニ出漁シテ居ル漁船ニ左様な例ガ多イト思ヒマスガ、ソレ等ノモノニモ、矢張無線電信ノ裝置ヲ命ズルコトヲ此法律ノ目的トシテ居リマスカ

○植原政府委員 五百噸以下ノモノデアリマスレバ、左様な事ヲ強制スルコトハナカラウト思ヒマス、又其船體構造、其他ノ事情ニ依テ無線電信ノ設備不可能ト認メタルモノニ對シテハ、遞信大臣ノ認可ヲ得テ其施設ヲ致サナクテモ宜イコトニナッテ居リマス

○森委員 サウスルト第一條ノ末項ニナッテ居ル二千噸未滿ノモノニ對シテ例外ノ規定ヲ設ケルガ爲ニ、主務大臣ノ命令事項ノ方ニ讓ッテアル此條項ハ、全然御除キニナッテ、只今ノヤウナモノハ、幾噸以内ノモノニ對シテ、其裝置ヲ強要シナイト云フコトヲ、明文ニ載セルノハ困難デアリマスカ

○植原政府委員 先刻申上ゲマシタ通り、五百噸以内ノモノハ強制シナイ積リデアリマス、御承知デモアリマセウガ、二千噸未満ノモノデアッテモ、多數ノ人員ヲ搭載スルモノニハ、人命ヲ尊重スルト云フ意味デ之ヲ強制シタイと思ヒマス、其結果一方ニ於テハ噸數、一方ニ於テハ人員、此二ツノモノヲ並ベテ、原則ヲ定メテ、此法案ヲ提出シタト云フコトニ御承知ヲ願ヒマス

○森委員 只今私ノ質問シタコトニ對スル、直接ノ御答デナイヤウニ聞キマシタガ、出來ルナラバ總テノ船舶ニモ無線電信ヲ裝置ラシテ、百哩以上ヲ超エテ航海スル乗組員ノ安全ヲ保障スルノハ賛成デアリマスガ、唯、今日ノ實狀ヨリ申セバ、遠洋ヲ回航スルモノハ必シモ大噸數ノ船舶ノミニ限ラナイ、殆ド御想像ノ及バナイ程ノ小サナ船ガ何千哩ノ海ヲ越エテ盛ナル活動ヲ致シテ居ル今日デアリマス、若シ其等ニ對シテモ無線電信ノ裝置等ヲ強要サレルコトニナレバ、其等ノ業務ニ從事致シテ居リマス者ニ取リマシテハ一ツノ革命トモ考ヘラレルノデアリマス、一方カラ言ヘバ洵ニ結構ナ事デアアルガ、片一方カラ考ヘテ見ルト經濟上等ノ關係ニ於テ是ハ餘程考慮ヲ要スル、ソレニモ拘ラズ大體ニ於テハ二千噸以上ノ船舶、五十人以上ノ人ヲ載セル船舶、此二ツニ對シテハ何レニモ無線電信ノ裝置ヲ命ズル、斯ウ云フコトニナッテ參リマ

ス、唯、僅ニ第一條ノ末項ニ於テ「主務大臣ハ別段ノ規定ヲ定ムルコトアルヘシ」ト云フ一條ヲ御置キニナッテ居ルニ過ギヌノデアリマス、遞信大臣ノ御方針如何ニ依ッテハ、或ハ五十噸位ノ小サナ船デアッテモ、百名以上ノ人ヲ載セテ居ッテ場合ニハ、矢張御強制ニナルカ知レナイ、寧ロ五百噸以下ノモノニハ左様ノ事ヲ強制シナイノダト云フ御方針デアルナラバ、ソレヲ明ニ此條文ノ上ニ御載セニナルト云フコトハ何等カ法律ノ執行上ニ於テ妨ゲアリト御考ヘニナルノデアアルカ、其點ヲ伺ヒタイ

○植原政府委員 先刻申上ゲマシタ通り、施行規則ニ依リマシテ五百噸未満ノモノニハ強制シナイ方針デ居リマス、何故左様ナ事ヲ致スカト申シマスレバ、只今御質問ノアリマシタ通りニ、生命財產特ニ生命ト云フモノニ對シテハ成ベク其安全ヲ期スルヤウニ致シタイ、ケレドモ經濟上ノ問題モ考ヘナケレバナリマセヌ、經濟上ノ問題ヲ考ヘマサル場合ニハ、サウ小サナモノニ強制シテ、折角一方ニ於テハ生命ノ安全ハ期セラレルヤウナモノ、一面ニ於テ經濟上船主ニ致セ、其船舶ノ持主ニ致セ、或ハ此運航ヲ掌ッテ居ル者ニ致セ、其事業ニ多大ノ支障ヲ招グヤウナコトガアッテハト云フコトヲモ十分ニ考慮致シマシテ、ソレデ五百噸未満ノモノ、先刻申述べマシタ通り大體四五種ノモノニ對シテハ、施行規則ニ依ッテ

之ヲ明カニシテ、サウシテ經濟上支障ノナイヤウニシ、又ソレト共ニ生命ノ安全ヲ期スル、斯ウ云フ方針デ進ミタイト考ヘテ居リマス

○森委員 餘リニ執拗イヤウデスガ、御答ガ出來ナケレバ強テ申上ゲルコトヲ致シマセヌガ、只今ノ御方針、御趣旨ハ能ク分ッテ居ルノデアリマス、斯様ニシタイト思フト云フ其御希望ノ點ハ能ク分ッテ居リマス、唯、何故ニ左様ナ希望ヲ以テ御進ミニナラナケレバナラヌカ、少クトモ五百噸以下ノ船舶ニ對シテハ、此法律ヲ強要スル考ガナイト云フコトデアアルナラバ、ソレヲ何故條文ニ現ハスコトヲ御避ケニナルノデアアルカ、條文ニ明ニソレヲ現ハスコトガ御困リニナル事情ガ何處ニ在ルカ、是非施行規則デナケレバナラヌ理由ガ何處ニ在ルカ、斯ウ申上ゲタノデアリマス

○植原政府委員 是ハ先刻來申上ゲル通り、二千噸以上ノモノデアリマスレバ、大體ニ於テ強制致シマシテモ經濟狀態ニ差支ナイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、ソコデソレダケデハドウモマダ十分ニ人命等ノ安全ヲ期スル譯ニ行カナイ、經濟上許セルノモナラバ其以下ノモノデモ成ベク生命ノ安全ヲ期スル爲ニ、相當ナ法律ヲ作ルノガ必要ダト云フノデ五十人以上ノ人員ヲ搭載スルトス様ナ事ヲ定メタノデアリマス、ソコデソレニ付キマシテモ沿岸ヲ航行スルモノニ對シテノ除外モ致スト云フ、又

船體ノ關係上無線ノ設置ノ出來ナイヤウナ船舶ニ對シテモ、是ハ除外ノ途ヲ講ジナケレバナラナイ、五十人以上ノ人間ヲ搭載シテモ、其航行ノ目的ニ依ッテ、回航等ノ場合、若クハ救助ノ場合ニ於テハ之ヲ除外ヲ致サナケレバナラナイト云フヤウナ立場デアリマスガ故ニ、此原則ヲ成ベク經濟上ニ支障ナカラシムルヤウニ執行シヤウトスレバ、只今申スヤウナ事ヲ細カニ定メマシタナラバ、何處デ一體其法律ノ上ニ限界ヲ引イテ行キマシテモ、結局御質問ノヤウナコト、五百噸未満ノモノニ致シマシテモ、三百噸未満ノモノニ致シマシテ、サウシテ此目的ヲ達スルト共ニ、經濟上設備等ニ於テ支障ノナイ途ヲ講ズルニ付キマシテハ、相當ニ考慮致サナケレバナラナイ、左様ナ事マデ全部法文ニ載セテ見マシタ所ガ、又何處カデ除外ノ途ヲ作ラナケレバナラナイト云フコトデアリマスガ故ニ、大體ニ於テ五百噸未満ノモノニハ之ヲ實行シナイ、サウシテ其他ノ除外ニ對シテハ施行規則ニ讓ルコトガ立法上ノ便宜ト考慮致シタ譯デアリマス

○若宮委員 一寸私ハ傍カラ聽イテ居ッテ申上ゲルノモ何デスガ、御尋ト御答辯ト多少其處ニ喰違ヒガアルノデハナイカト想像致シマスガ、御質問ノ方ノ要點ハ、何故ニ五百噸以下ヲ除外スルカト云フ腹案ガアルナラバ、ソレヲ法文

ノ上ニ現ハサヌカ、言葉ヲ換ヘテ言ヒ
マスト、法文ノ方デハ五十人以上ノ人
員ヲ搭載スル船舶、斯ウ書ケバ船舶ノ
大サカラ云ヘバ、五百噸以下ノモノデ
モ五十人以上ヲ搭載シタモノハ當然此
法律ノ適用ヲ受ケルト云フ、斯ウ云フ
表面ニナツテ居ル、然ルニ政府ノ方デハ
五百噸以下ヲ除外スルト云フ御考デア
ルナラバ、寧ロソレヲ法文ニ明記サレ
タ方ガ宜シイデハナイカト云フ御尋ノ
ヤウニ承ツタノデアリマスガ、此點ニ付
テハ或ハ政府ノ御考ハ斯ウ云フ所ニア
ルノデハアリマスマイカ、此國際のニ
諸外國ノ法律モ五十人以上ノ人員ヲ搭
載スルモノハ、之ヲ強制スルト云フコ
トガ各國共ニ慣例ニナツテ居ルヤウニ
私ハ存ジテ居リマス、其邊ヲ政府デハ
御考慮ニナツタノデハナイカト私ハ想
像シテ居リマスガ、如何ナモノデアリ
マセウカ、其點ヲ一寸伺ツテ置キタイ

○植原政府委員 其點ハ先刻來私ガ申
上ゲテ置キマシタ、諸外國ノ噸數ノミ
ニ依ツテ居ル所ト、千六百噸以上或ハ二
千噸以上ト云フ噸數制ニ依ツテ居ル所
ト、ソレカラ五十人以上ト云フ人員制
ニ依ツテ居ル所トアリマス、其事ヲ考慮
致シマシテ作ツタモノデアルコトハ勿
論デアリマススケレドモ、之ヲ五百噸未
滿ノモノヲ除外スルトシテ見タ所ガ、
又矢張五百噸未滿ノモノデアツテモ、結
局何處カニ制限ヲスルト云フコトガ
起ツテ來テ、五百噸ト云フコトヲ入レマ

シテモ、或ハ三百噸ト入レマシテモ、法
律上ノ疑問ノ起ツテ來ルコトハ結局同
ジコトダラウト思ヒマス、サウ云フ事
ヲ何處カニ境界ヲ引カナケレバナラナ
イ、斯ウ云フ事ニ結局違著スルノデ、色
色ノ特殊ナ事情ノコトニ付キマシテ
ハ、施行細則ニ讓ツタ方ガ立法上便宜デ
アル、斯ウ云フ點デ先刻申上ゲタ、大體
ニ於テ五ツノ除外スルモノ等ノ事ニ付
キマシテハ、施行規則ニ依ツテ之ヲ明記
シヤウト云フ此法文ノ上ニ於テ之ヲ書
クマイ、大體ニ於テ此法律ハ國際上ノ
問題、其他ノ關係デ共通ノ點ヲ定メル所
ハ定メテ置イテ、其他ノ點ハ施行細則
ニ依ツテ除外ヲ定メタ方ガ宜シイ、斯ウ
考ヘテ此法案ニ其事ヲ明記シナイコト
ニナツテ居ル、斯様ニ申上ゲタノデアリ
マス、若宮サンノ御話ノ趣意モ十分ニ
含メテ居ルノデアリマス

○森委員 幾度御尋ヲシテモ、私ノ御
同致シタイト思フ御答ヲ得ラレナイノ
デアリマスカラ中止シテ居リマシタ
ガ、只今若宮サンカラノ御話ガアリマ
シタノデ今一應伺ツテ置キマス、只今ノ
ヤウナ御話デアルナラバ、大體ニ於テ
噸數五百噸以下ノモノニハ之ヲ強要シ
ナイ積リデアルト云フコトデアアル、ソ
レデアルト第一條第一項第一號ト云フ
モノヲ、總噸數五百噸以上ノ船舶、斯ウ
御變ヘニナリマシテモ差支ナイト思フ、
ソレデモ困ルト云フノデアリマスガ、
而モ但書ガアリマシテ、主務大臣ハ期

間ヲ指定テシ、其施設ノナイモノハ之
ヲ航行ノ用ニ供セシムルコトガ出來ナ
イト云フコトニモナツテ居リマスカラ、
更ニ施行規則ニ依ツテ細目ヲ定メナケ
レバナラヌト云フコトデアアルナラバ、
即チ五百噸以下ノモノニ對シテ、特殊
ノ場合ヲ省令ノ規定ニ依レバソレデ宜
シイト思ヒマス、一方ハ二千噸以上ト
限定シテ置キナガラ、實ハ五百噸以下
ニハ之ヲ強制シナイト云フコトヲ繰返
シテ仰シヤルノハオカシイ、外國デハ
二千噸ト書イテアツテモ、日本デ五百噸
トシテモ一向差支ナイト思ヒマス

○植原政府委員 一方ニ於テ二千噸以
上ト定メ、他ノ一方ニ於テ五十人以上ト
定メタコトハ、國際的ニ成ベク共通ノ點
デアルト云フコトモ一ツデアリマス、モ
ウ一ツノ點ハ二千噸以上ノモノデアリマ
スナラバ、大體ニ於テ強制シテモ算盤
ガ持テルト云フコトガ一ツ、ソレカラ
尙ホ實際問題ニ付テ考ヘマスルト云フ
ト、五百噸以上ノモノデアツテ五十人以
上ヲ載セテ沿岸百哩以上ヲ超エテ出ヅ
ル船舶ハ殆ド無イト申上ゲテモ宜シイ
位デアルト云フ管船局ノ調査デアアルサ
ウデアリマス、サウシテ見レバ今日五
百噸ト之ヲ定メテ、經濟上ニ於テ多少不
安デアルト云フ規定ヲ設ケタリ、實際之
ヲ施行スル上ニ於テ、餘リ適用スルコト
ノナイヤウナ規定ヲ置ク必要ハナカラ
ウト思ツテ、二千噸ト云フ限度ヲ定メタ
譯デアリマス、尙將來ニ於キマシテ五百

噸以上ノモノデアツテ、五十人以上ヲ乗
セテ遠洋ニ出ヅルト云フモノガ澤山出
テ參リマシテ、ソレガ爲ニ生命財產ニ危
險ヲ及ボスト云フヤウナコトガアリマ
シタナラバ、左様ナコトノ必要モアラウ
ト思フガ、現在ニ於テハ大體ニ於テ是デ
其目的ヲ達スル上ニ於テ支障ナシト考
ヘテ、斯様ナ規定ヲ設ケタ譯デアリマス
○森委員 最後ニ今一ツ、サウ致シマ
スト政府ノ御覽ニナル所デハ、五十人
以上ノ人ヲ搭載スル船舶デアレバ、大
體ニ於テ五百噸ヲ降ルコトナシト御認
ニナツテ居リマスガ

○植原政府委員 左様ニハ考ヘテ居リ
マセヌ、五百噸未滿ノモノデモ、五十人
以上ヲ載セテ航行シテ居ルノガゴザイ
マスガ、ソレ等ハ多ク近海百哩以内ヲ
航行スルニ止マツテ居ルト斯様ニ考ヘ
テ居リマス
○若宮委員 今ノニ關聯シテ如何デセ
ウ、政府ノ當局ノ方カラ航路ノ制限ノ
關係、噸數ノ關係、ソレカラ乗組員ノ關
係等、實際ニ御調ニナツタ所ヲ御話ヲ願
ツタラ、大變ニ明瞭ニナリハセヌカト思
ヒマスガ
○砂田委員長 ソレデハ其事ニ付テ管
船局長カラ説明シタイト云フコトデア
リマスカラ、管船局長カラ説明シテ貰
フコトニ致シマス
○宮崎管船局長 ソレデハ私が御許ヲ
得マシテ大體申上ゲマス、先刻來參與
官ノ御話デ大體ハ盡キテ居リマスガ、

航路ノ問題ニ付キマシテ、是ハ大體檢査法規ヲ定メラレテ居ル航路ヲ茲ニ現ハシタノデアリマス、檢査法規ニ在リマス航路ハ、御承知ノ如ク、遠洋、近海、沿海、平水、斯ウ云フ風ニ四ツテ分レテ居リマス、而シテ此平水ト云フノハ其文字ノ示ス如ク餘リ風波ノ危險ノ無イ安全ノ場所、例ヘバ港灣トカ河川トカ云フモノヲ申シテ居リマス、ソレカラ陸岸ヲ少シ離レテ、比較的短距離ニシテ陸岸ニ接シ、而モ其航路タルヤ航海上ノ危險ノ無イト云フノヲ沿海ト稱シテ居リマス、是モ船舶檢査法規ニ依リマス、地點ヲ舉ゲテ或ル地點カラ地點ノ間、之ガ沿海デアルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、其次ノ近海ト云フノハ、ソレヨリモ範圍ガ一層擴大シテ是ハ經緯度デ定メテアリマス、今日ノ處デハ先ヅ北ハ勘察加附近カラ南ハ南洋、爪哇方面ヲ含ムコトニナツテ居リマス、其以外ノ所ハ總テ遠洋ト申シマス、遠洋ト云フノハ要スルニ諸外國ニ通ズル世界的ノ航路ヲ稱シテ居ルノデアリマス、而シテ本法ヲ實施スル範圍ハ第一條ニアリマス如ク、其内ノ遠洋航路及近海航路、比較的遠距離ヲ航行スル所ノモノヲ強制シヤウト云フ考デアリマス、是ハ先刻來參與官カラモ御話ガアッタト思ヒマスガ、此問題ノ起リハ御承知ノ如ク千九百十年ニ北大西洋ニ於ケル「タイタニック」號沈沒事件カラヤカマシクナリマシテ、千九百十

三年ニハ倫敦ニ於テ大西洋ニ航行スル所ノ船舶ノ人命救助ニ關スル條約モ出來タノデアリマス、其條約ノ趣旨カラ見マシテモ、要スルニ生命財産ノ安全ヲ圖ルト云フコトデアリマシテ、極端ニ申セバ如何ナル小サイモノニモヤレバ宜イノデスガ、ソレハ先刻來ノ御話ノヤウニ、全部ヤルコトハ經濟ガ許サヌ、全部ニ強制スル譯ニ行カナイカラ、或ル程度ノ除外ヲ設ケルト云フコトニナツテ居リマス、ソレハ各國ニ依ツテ事情ガ違ヒマスガ、各國トモ其處ニ餘裕ヲ取ツテ居ルノデアリマス、ソコデ其等ノ趣旨ヲ參酌致シマシテ、其時ノ實況ニ應ズルヤウニ相當ノ除外例ヲ設ケテ居ルノデアリマス、此提案ヲ致シマシタ趣旨ハ大體ニ於キマシテ、最近ノ立法例デ、而モ私共ガ最モ適當ト思フ佛蘭西ノ法制ニ依ツタモノデアリマス、ソコデ此法案デ強制ヲ受クベキモノハ二千噸以上ト云フコトニシマシタ、是ハ佛蘭西ノ法制ニモアルノデアリマス、尤モソレハ國ニ依ツテ違ヒマシテ、英吉利ノ如キハ千六百噸ト云フコトニナツテ居リマス、又國ニ依ツテハ全然噸數ニ制限ナク、單ニ搭載人員ノミヲ目的トシテ規定シテ居ルモノモアリマス、故ニ何故二千噸トシタカト云フコトニ付テ、理論的ニ之ヲ説明スルコトハ困難デアリマス、併ナガラ先ヅ船舶ノ價額トカ、又其船舶ガ搭載シ得ル人員ノ關係、並ニ其船舶ノ運航經濟、是等諸般ノ點カ

ラ考慮シテ、之ガ最モ適當デアルト判斷シタノデアリマス、理論的ニ説明シロト云フコトデアレバ、ソレハ困難デアリマス、而モ是ハ各國モ大體ニ於テ千二百噸トカ二千噸トカ云フヤウナ所ガ、最モ適當ノ噸數ト認メテ居ルノデアリマスカラ、私共モ大體ソレニ依ルト云フ趣旨カラ、茲ニ二千噸ト云フコトヲ採ルコトニナツタ譯デアリマス、而シテ此二千噸ノ搭載人員、即チ乗込海員ハドレ位ニナルカト云フコトニナルト、大體調ベマシタ所デハ、三十人以上四十人位ニナルト思ヒマス、船ニ依ツテ違ヒマスカラ、一樣ニ申上グラレマセヌガ、先ヅ其位ノ人ガ乗ツテ居ルト思フノデアリマス、サウスレバ相當ナ人ガ乗ツテ居ルト云フコトガ言ヘルノデアリマスカラ、先ヅ此邊ノ所デ止メテ置クノガ最モ適當ナ所デナイカ、斯ウ云フ考デアリマス、ソレカラ五十人ノ方デアリマスガ、是ハ千九百十四年倫敦會議ニ於キマシテハ、五十人以上乗ツテ居ルモノハ強制スルコトニナツテ居ルノデアリマシテ、是ハ國ニ依リマシテハ五十人ト云フコトヲ出サナイデ、旅客船ニハ之ヲ強制スルト云フコトニナツテ居リマスノモ大分アリマス、例ヘバ英吉利ノ如キ旅客船ニハ強制スル、又一面ニハ千六百噸ト云フコトガアリマスガ、他ノ方ニ於テ旅客船ニハ之ヲ強制スルコトニナツテ居リマス、此旅客船ト云フモノハ御承知ノ通り英吉利ノ法制ニ依レバ、十三

人以上旅客ヲ搭載スルモノハ旅客船トナルノデアリマスカラ、船員ヲ除キ十三人ノ客ガアレバ、強制サレルコトニナリマス、サウスルト是ハ五十人ニ達セヌデナイカト云フ疑ガ起ルノデアリマス、無論船ニ依リマシテハ、五十人ニ達セナイコトガアルト思ヒマス、併ナガラ申上ゲルマデモナク、英吉利其他ノ海運國ニ於ケル旅客船ト申シマスノハ、我國ノ旅客船トハ大分趣キガ違ツテ、相當大キナノデアリマス、日本ノヤウナ僅ニ數百噸ノ船ニ多數ノ人ヲ積ムト云フコトハ比較的少イ、ソレ故ニ彼ノ國ニ於テ旅客船ト申スノハ、大體ニ於テ大キナ船デ、先ヅ五十人以上ノモノガ十中八九ト心得テ宜カラウト考ヘル、是モ斯ウ云フ風ニ文字ニ書イテ見マスト違ヒマスケレドモ、實質カラ見レバ、矢張五十人以上ニナルダラウト思フ、ソレデモ此法案ニハ先ヅ五十人以上ト云フコトニ決メタノデアリマス、所ガ之ニ對シテ各國デモ色ミノ除外例ヲ設ケテ居リマスガ、先程來申上ゲルヤウニ、日本デハ旅客運送ニ從事スル船ハ比較的小サイ船ガ多イ、而モソレハ沿海以下デアリマスガ、非常ニ多イノデアリマス、大體ソレハ近海ニ出ルモノデアリマスガ近海以上ヲ出ルモノハ是デ強制シヤウ、所ガ此近海ニ出ルノガドノ位カト云フ仰セガアルダラウト思ヒマスガ、實際ハ調ベガ困難デアリマス、私ノ方デモ大分

調ベタノデアリマスガ、中々正確ナ數字ヲ得ルト云フコトハ困難デアリマス、一時船ノ都合デ廢船シテ居ッテモ、又ヤルト云フコトニナリマスカラ、甚ダ正確ナ數字ヲ知ルコトハ困難デアリマス、ケレドモ先ヅ私共ノ經驗ニ依ッテ、又調査シタ所ノ材料ニ依リマシテモ、近海以上ヲ航行スル五百噸ノ船デ五十人以上ノ人ヲ搭載スル船ハ極メテ少イモノト考ヘルノデアリマス、ソコデ現在ノ狀況カラ推シテ行ケバ、五百噸未滿ノモノデ近海航路以上ノモノハ實際少ナカラウ、是ハ又事情ニ依ッテ近海以上ヲ航行スル船デ、五百噸未滿デ多數ノ人ヲ載セテ續々出ルト云フコトニナレバ、是ハ法律全體ノ精神ニ立戻ッテ、是等ノモノニ對シテモ強制シナケレバナラヌト思フノデアリマス、サウ云フモノハ一々之ヲ法律ニ決メテ、議會ノ協賛ヲ俟タナケレバ之ヲ動カスコトガ出來ナイト云フコトニスルノハ餘リ窮窟デハアルマイカ、此位ノコトハ行政官廳ノ手心デヤッテモ宜イノデナイカ、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、大體右様ナ次第デアリマスガ、尙ホ御質疑ニ應ジマシテ、出來得ル限リ御答辯ヲ致シマス

共ノ實際ニ承知致ス所ヲ以テスレバ、五百噸未滿ノ船ニシテ五十人以上ノ人間ヲ搭載致シテ、百哩ヲ超エタル海路ヲ往復シテ居ル實際ハ、全國ノ海ニ近イ所デアルナラバ、毎日之ヲ見ルコトガ出來ルト思フ、左様ニ區別出來ナイ數デハナイト思ッテ居リマス、ソレデ此法律ノ目的ヲ貫カウト云フコトナラバ、ソレ等ノ船ニ矢張無線電信ノ裝置ヲ強制シマスコトガ宜イノデアアル、併シ一方カラ先程申上ゲルヤウニ、經濟上ノ關係ガアリマスノデ、左様ニ強制致スコトガ現在ノ國情ニ適スルヤ否ヤヲ考ヘナケレバナラヌト思フ、若シ此規定ガ單ニ總噸數二千噸以上ノ船舶、斯ウ御決メニナッテ居ルナラバ、私ハ何モ質疑ヲ致サナイ、唯々疑ハキマシタノハ、五十人以上ト云フ此人員ガ如何ニモ小サクナッテ居ル、昔ナラバ百哩ノ航海ト云ヘバ餘程大キイ航海デアリマスガ、今日ニ於ケル海ニ馴レタル者ノ考ヘル所ニ依リマス、今日ハ殆ド問題ニナラヌ、而シテ五百噸以下ノ船デアッテ五十人以上ノ人ヲ載セテ、而シテ左様ナ距離ヲ航海ヲスルト云フコトハ、是ハ汽船ノミナラズ、發動船或ハ發動機ヲ備付ケナイ所ノ普通ノ帆船デモ決シテ少クナイ、私共ハ斯様ニ考ヘテ居ル、只今ノ政府委員ノ御説明ニ依ルト、若シ五十人以上ヲ搭載スル船舶ニシテ、而モ五百噸未滿デアッテ百哩ヲ超エテ航海スル實例ガ多イト看做シ、此裝置

ヲ更ニ強制シナケレバナラヌト云フコトデアッテ、私共ノ心配スルノハ、事實上必要ガアルト認メタルトキニハ、法律ノ規定ヲ此儘ニシテ置クトキニハ、必ズ左様ナモノニ手ヲ御擴ゲニナラナケレバナラヌ、其時ニ船舶ノ經濟ヲドウスルカ、之ヲ心配スル、私ハ理想ノ上ニハ此規定ヲ左様ノ船ニ應用シタイト云フノデハナイ、經濟ノ關係上左様ナモノニ強制サレテハ困ルト思ヒマスカラ、寧ろ五百噸ト云フヤウナモノヲ、此文字ノ上ニ御現ハシニナッタドウカト云フ意味デ御尋シタノデアリマス、只今ノ御答デハ植原政府委員ノ御答ヨリ、此法律適用ノ範圍ガ廣クナッテ參ルヤウデアリマスガ、其點ヲ心配致シテ、只今マデノ質疑ヲ繰返シタト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

○宮崎管船局長 只今ノ御話ニ依レバ、五百噸未滿デ五十人以上ヲ搭載シテ居ルモノガ、近海以上ニ運航スルコトハ多々アルト云フ御話デアリマスガ、私共不幸ニシテ未ダ其數字ニ餘リ打ツカリマセヌカラシテ、如何デアリマス、直ニソレハドウト云フ譯ニハ行キマセヌ、唯々此問題ニ付キマシテハ、或ハ漁船ノ關係ニ於テ、サウ云フコトハ起ルカモ知レヌト思ヒマス、漁船ハ餘程普通ノ商船トハ趣ガ違ッテ居リマスカラ、是ハ別途ニ考ヘル必要ガアルノデハナイカト思ヒマス、ソレデ先刻來申上ゲルコトデ、尙ホ一ツ落シタコトガアリマスガ、五百噸未滿ノ船ニナルト、此設備ヲサセルノニハ殆ド不能ノモノガアルノデアアル、設備ヲスルニハ相當ノ容積モ必要デアリマス、船ノ構造上困難デアルト云フコトモアル、又電氣裝置ノ無イ船ノ如キハ殆ド困難デハナイカト思フ、サウ云フヤウナモノニ對シテ、本法ヲ強制スルト云フコトハ、要スルニ其船ノ用途ヲ失ハセルト云フコトニナルノデアアルカラシテ、斯ウ云フモノハ或ル一定ノ期間ヲ、或ハ又時ニ依ッテハ其船ノ一生涯ヲ通ジテ、或ル緩和シタ所ノ方法ヲ講ジテヤラナケレバナラヌ必要モ、行政廳トシテハ考ヘナケレバナラヌモノト思ヒマス、斯ウ云フヤウナ點モ考慮シテ居ルト云フコトハ無論ノコトデアリマス、ソコデ將來ハ若シ近海以上ニ斯ノ如キ船ガ出タナラバ、ソレニ強制スルカト云フ御話デアアルガ、是ハ私ハ其時ノ事情ニ依ッテ判斷スベキモノデ、今カラヤルヤラスト云フコトハ申上ゲルコトハ困難デアルト思ヒマス、又先刻來五十人以上ト云フコトハ、日本ノ船ニ照シテ餘リ人數ガ少イノデハナイカト云フ御議論モアリマシタガ、是ハ或ハ我國ノ今日ノ狀態カラ見レバ、或ハ少イカモ知レマセヌケレドモ、是ハ國際的ニ決メラレツ、アルノデ、其國際的ノ基本トナルベキ所ノ倫敦協定ハ、サウ云フ標準ニナッテ居リマス、又各國ガ立法シテ居ルノヲ見テモ、五十人ヲ標準ト

シテ居リマスカラシテ、國際のカラ致シマス關係カラ見テモ、此五十人ヲ或ハ六十人或ハ七十人ト云フ風ニ殖ヤシテ行クノハ如何ノモノデアラウカ、是等ノ點モ餘程國際的ニ考慮シナケレバナラヌコト、思ヒマス、或ハ一方ニ於テ五百噸以上ヲ強制スルカラシテ、二千噸以上ノ五十人乗ッテ居ルモノハ、外國ヘハ行カヌノデハナイカ、サウスレバサウ云フ問題モ起ラヌノデハナイカト云フコトガアルカモ知レマセヌケレドモ、此規定ノ本來ノ精神ハ、國際的ニ決メヤウト云フコトニナッテ居ル、又外國ト申シマシテモ、日本ガ露西亞アタリニ其法律ヲ布キマスレバ、直ニ國際關係モ惹起スノデアリマス、支那モ次第ニ依レバサウ云フコトガ起ルノデアリマスカラ、一面ニ於テハ全然國際的關係ヲ惹起サナイト云フコトモ言ヘナイノデアリマスカラシテ、先ヅ國際的ノ協定ノ精神ヲ重ンジテ、各國ノ立法例ヲ考ヘテ五十人ト云フモノガ更ニ適當ナモノデハナイカト思フノデアリマス、漁船ハ特ニ除外スルト云フ考ハ今ノ所アリマセヌガ、先ヅ五百噸未滿ノモノヲ解放スルト云フコトニナッテ居ルノデアリマス

カ、或ハ植原政府委員ノ御説明ニ依ルト、五百噸以下ノモノハ全然適用シナイヤウニ伺ヒマシタガ、管船局長ノ御話ニ依ルト、三百噸四百噸ニスルト云フヤウナコトハ、主務大臣ノ自由裁量ニ任セテ置ク方ガ、便宜ガ宜イト云フヤウナ御説明デアリマシタ、ソレデ本法ヲ適用スベキハ五十人以上ノ人員ヲ搭載スル船舶、五百噸以上ニ限ラルル趣意デアルカ、又場合ニ依ッテハ第一條ノ末項ニ依ッテ、五百噸ヲ三百噸ニ限定シ、或ハ四百噸ニ定限スルト云フコトモアルト云フ御趣意デアリマスカ、此二點ヲ明ニ御説明ヲ願ヒタイ、序ニ參考書ヲ戴キマシタノニハ、矢張近海航路以上ニシテ、五十人以上ヲ搭載スル五百噸以上ノモノハ、百五十一艘ノ載積數ガ御調べニナッテ居リマスカ、近海航路以上ニシテ五十人以上ヲ搭載スル五百噸未滿ノ實際ノ載積數ハ、管船局デハ明カニナッテ居リマセヌカ、其數ヲ伺ヒタイ、以上ノ點ヲ御伺ヒシタイト思ヒマス

○植原政府委員 御答致シマス、噸數ノ點カラ參リマスレバ、此處ニ規定シテアル通り二千噸以上ノモノ、先刻來段段ト申上ゲマスル通り、五百噸未滿ノモノニハ之ヲ適用シナイト、施行規則ニ依ッテ定メル方針デゴザイマス、ソコデ漁船ニハ間ニ五百噸未滿ノモノデ五十人以上載セテ居ルモノモ相當ニアリマセウガ、是等ハ主トシテ沿海、沿岸ヲ航行スルモノト考ヘテ居ル、漁船ニ付テハ管船局長カラ先刻申サレマシタ通り、又特殊ノ考慮ノコトモ必要デアラウ、斯ウ云フ方ノ建前カラ各國ノ立法例モ考慮致シテ、二千噸ト噸數ヲ定メ、二千噸ノモノハ其處ニ三十人、四十人、五十人見當ノモノデアラウ、斯様ナ立場カラ行ツタ、ソレノミデハ實際ニ於テ人命ノ不安ト云フ點ニ於テ、多少缺ケル點ガアルノデ、人命上ノ方ノ規定モ加ヘテ置クコトガ、此立法ノ趣意ヲ貫ク上ニ於テ宜カラウト云フノデ、此二ツノ原則ヲ此法律ノ中ニ含マセルコトニ致シタ、斯ウ云フコトニ御諒解ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソコデ最後ノ五百噸未滿ノモノデ、五十人以上ノ船ノ調ベデアリマスカ、一寸只今ノ所デハ十分ナ調ベガ付イテ居リマセヌケレドモ、尙ホ調ベノ出來ル限リ調ベマシテ、間ニ合ヘバ委員會ヘ上ゲマスガ、大變複雑シテ始終變リマスカラ、事ニ依ルト間ニ合ヒ兼ネルコトヲ御承知願ヒマス

○永井委員 只今ノ御説明デ能ク分リマシタ、結局第一條ノ五十人以上ノ人員ヲ搭載スル船舶ハ、五百噸以上ノ船舶ニ限ルト云フコトニ承知シテ宜シウゴザイマス

○宮崎管船局長 左様デス

○若宮委員 管船局長ニ御尋シタイノデスガ、今ハ變ツタカモ知レマセヌガ、以前ハ艦カ汽船デ千噸以上、帆船デ五百噸以上デナケレバ、近海航路ノ許可ヲ與ヘナカッタヤウニ記憶致シマスガ、今ハ如何デスカ

○宮崎管船局長 ソレハ随分小サナモノガ行キマス、帆船ナドハ五百噸未滿デモ行キマス

○若宮委員 ソレデ分ケテ御尋致シマスガ、汽船デ千噸以下ノ船舶ニシテ、近海航路以上ノ定限ヲ許シテ居ルモノガアリマスカ、アリマセヌカ

○宮崎管船局長 今正確ニハ申上ゲラレマセヌガ、無論検査法規カラ行ケバ行ケルデアリマスカラ、其船舶ノ構造等ニ依ッテ行キ得ルト考ヘマス

○若宮委員 私ガ御尋シタイノハ、私ガ想像スル所デハ五百噸以下ノ船舶ニシテ、近海航路以上ヲ航行スルモノハ事實上無イカノ如ク想像スル、其點ガ實際如何デアリマスカ、五百噸以下ニシテ近海航路以上ヲ航行スルモノハ、恐ラク漁船ノミデアラウト思フ、殊ニ五十人以上ノ人員ヲ搭載スルト云フ場合ハ、無論漁船ノミト想像スルノデスガ、其邊ハ如何デスカソレヲ御尋スレバ宜シイ

○砂田委員長 如何デスカ、モウ十二時ニナリマシタシ、又委員外ノ橋本喜造君カラモ質問シタイト云フコトデスカラ、本日ハ此程度ニ止メ、引續イテ明日ヤリタイト思ヒマス、尙ホ理事杉宜陳君ガ辭任サレマシテ、補闕ニ若宮貞夫君ガ御當選ニナリマシタカラ、御報告申上ゲマス、本日ハ是デ散會致シマ

午後零時五分散會

ス